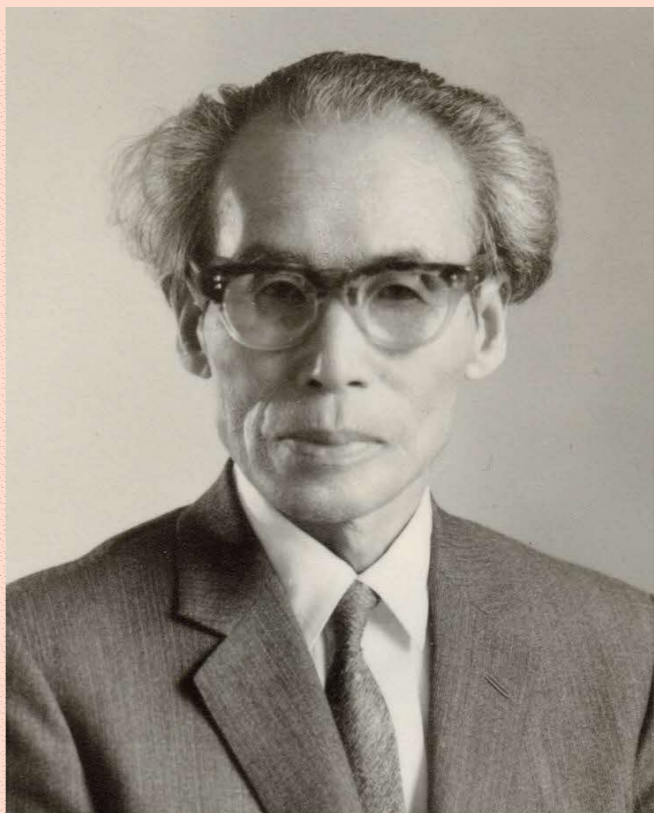


もりもと かく たん  
森本覚丹宇部市  
(1896～1996)

森本覚丹は早稲田大学北欧文学の課程に入学。トルストイ・チエホフ等を研究。その間フィンランドの大作作曲家シベリウスの曲に感銘、その源泉が叙事詩「カレワラ」にある事を知り、約八年間かけて翻訳。昭和十三年、フィンランド政府より白バラ一等勲章を贈られる。

昭和二十年春、東京より郷里宇部に帰り、廃墟となった国土を文化・芸術を以て復興せんと、山口大学・山口芸短等で美学・音楽史を教え、文化連盟を興し、あらゆる芸術活動の中心となって活躍。郷土史等にも精通。昭和四十五年、勲四等瑞宝章を受ける。晩年は良寛の枯淡の境に似る。  
(奥野保正)

## 【主な著作】

邦訳『カレワラ』（日本書莊、昭和12年）

『詩と音楽』（理想社、昭和16年）

『高杉晋作』（高山書院、昭和18年）